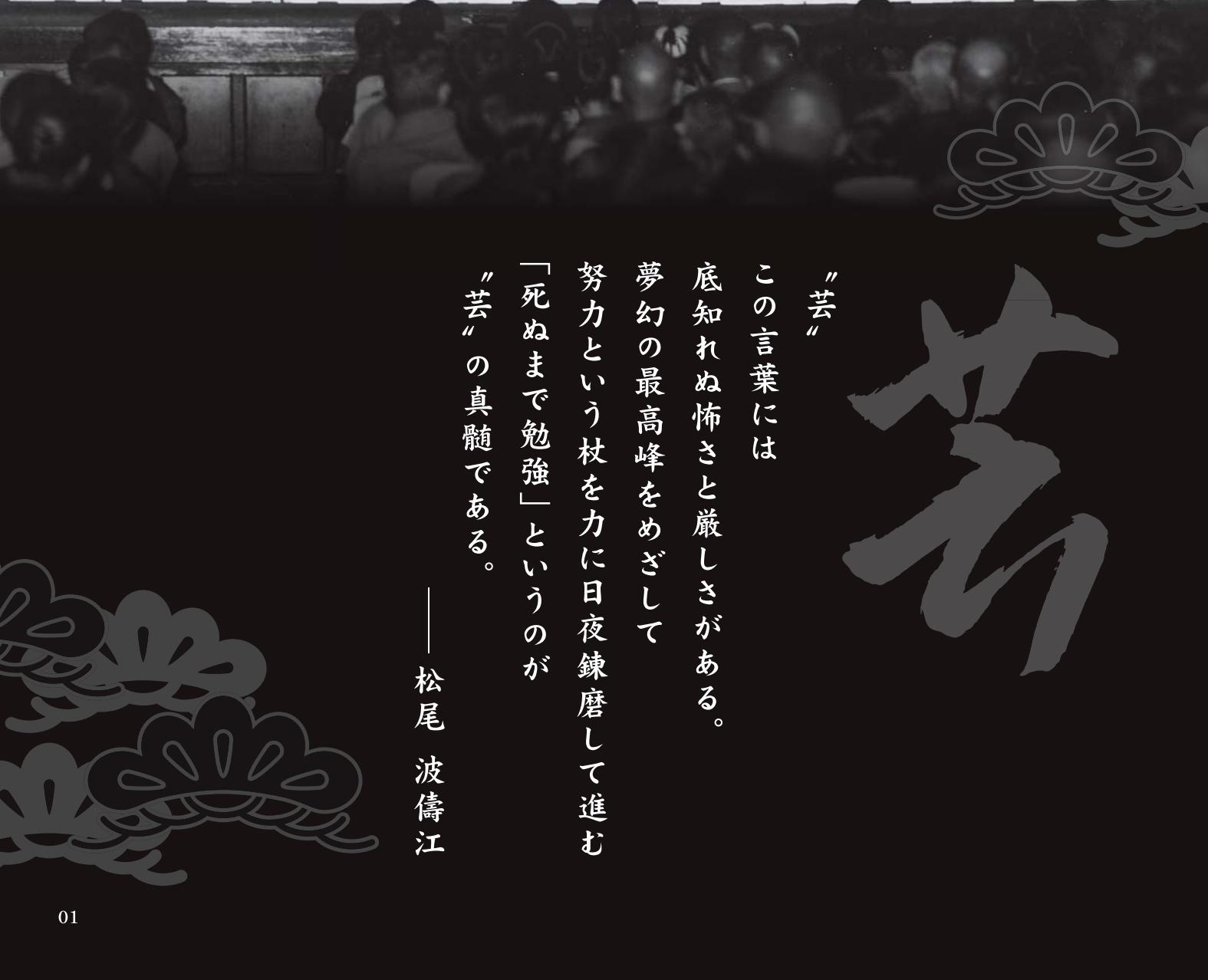


松尾塾
子供歌舞伎





初代塾長 松尾波儔江「女勧進帳」弁慶

歌舞伎の素晴らしさと

日本人の心

歌舞伎の素晴らしさと日本人の心



二代目塾長

松尾昌出子

1988年、「松尾塾子供歌舞伎」は

松尾波儔江により、未来を担う子供たちのために非営利教室として開塾しました。



初代塾長 松尾波儔江
1991年逝去 (90歳)

旅芸人から興行師・実業家として生きた父松尾國三、女役者として生きた母松尾波儔江、とともに幼い時から働き、教育を受ける機会がなかった2人でしたが、人としての基礎を築いてくれた「歌舞伎」に大きな感謝を持っておりました。松尾の原点は歌舞伎でございます。

歌舞伎に対する父の思いを継ぎ、母は86歳の時、自分の人生最後の夢だと申して「松尾塾子供歌舞伎」を開きました。そして、母の夢を私が引き継ぎ、守つて参りました。

当初、歌舞伎の稽古から子供たちに何を伝えることが出来るのか、私には演技指導の他、思いつきませんでした。しかし、年月を重ねるうちに母が目指していた「子供たちに日本人の心を伝える」という意味が理解できるようになつて参りました。演目の中にある人間模様だけではなく、舞台を作り上げるまでに子供たちが学ぶことは沢山あります。年間100日以上の稽古を積み、公演という目標を持ち、「松尾塾子供歌舞伎」は熱い思いと強い絆で結ばれていました。

母の後を継ぎ25年間、塾長として子供たちの指導を出来たことは、私にとって幸せであり、学びの場でもあり、天から与えられたありがたい仕事でございました。

松尾塾子供歌舞伎は28年で幕を下ろしますが、ここを巣立った約100人の子供たちに「日本人の心」が育まれ、日本の伝統芸能を誇りに思い、世界に発信してくれることを願つてやみません。

子供たちにこそ 本物を

松尾塾子供歌舞伎は指導陣をはじめ、大歌舞伎の舞台で活躍する一流の方々にご協力いただき子供たちに「学びの場」を提供してまいりました。

子供たちは大歌舞伎と遜色のない本格舞台公演を目標に、互いに協力し合い、感謝や我慢を体得します。そして自らを鍛錬する中でのみ得られる達成感で満たされ、心も技も大きな成長を見せました。



3歳から15歳の一般家庭の子供たちが

日本舞踊・長唄・三味線・所作・上方言語の稽古を重ね

東京・大阪をはじめ

ロサンゼルス・クアランプールなどで

公演を重ねてきました。

開塾の経緯と運営

元歌舞伎役者（当時株式会社新歌舞伎座社長）の松尾波儔江が、芸で受けた恩恵を現代の子供たちとその親に歌舞伎を教えることで社会に還元しようと志し、月謝・入会金・公演に掛かる費用は塾生に負担させることなく指導することを掲げ、財団法人松尾芸能振興財団の助成により1988年大阪に稽古場を開設しました。松尾波儔江没後は、一子松尾昌出子が25年に渡り愛情深く発展させました。

本物を追及

子供は、目・耳・体全ての五感を通して物事を吸収していきます。

「子供たちにこそ本物を」「本物を体得させることが真の教育」の思いから、第一線で活躍する講師陣と大歌舞伎に携わるベテランスタッフを配し、人間国宝の演奏者の協力も得て、本格的な舞台公演を追及してきました。歌舞伎界で活躍する現役の方々の支えにより、子供が演じる可愛さだけに留まることなく、伝統と品格を重んじ、衣裳・かつら・大道具・小道具に至るまで、演じる子供一人一人のサイズに合わせて作ることだわりを守り続けました。

指導するにあたり

「あきらめないこと」子供だからここまで出来れば上出来と決して思わず、常に100%を追及します。指導者が諦めると子供たちも「あきらめる」ことを覚えてします。

歌舞伎には師弟愛・主従の忠義・義理など子供たちは経験のない感情が沢山盛り込まれています。それらの感情をその年齢、環境にあつたものに置き換えて理解させ、感情を表現する所作を一つ一つ指導していきます。始めは所作、台詞だけに追われている子供たちも、稽古を重ねるうちに相手役との心が通じ、役そのものの感情になつていくのです。どんなに厳しく叱られ指導されても、そこに愛情がある限り、子供たちは必死につなぎます。自分が出来ないことに悔し涙を流す子もいます。そして、一つ一つ出来たことを褒められ、自信と努力の大切さを知つていくのです。子供は「面白い紙」です。真正面から向かい合い指導することで美しい色に染まり、心豊かになります。

また、子供の成長にはタイミングがあります。「今が伸び時」と感じた年には本人の力量より大きな役を与えます。そして公演までの1年間、互いに決して諦めることなく懸命に励むことで、子供は大きく成長をするのです。



義理
感謝
日本人の心
親孝行
人情

稀曲の伝承

歌舞伎義太夫・太夫 竹本葵太夫

淨瑠璃 竹本葵太夫
三味線 豊澤重松

松尾塾子供歌舞伎の功績はいろいろあると思うが、私は実演家の立場から、「稀曲の伝承」を挙げたい。

25年間松尾塾とお付き合いしたが、ふだんの歌舞伎公演では滅多に勤めることのない数々の稀曲にめぐり会えた。

聚楽町・八百屋献立・松玉屋敷・乳母争い・柳、珍品として新版後日のお光…。

これらの上演には、経験豊富な故・豊澤重松師という名手が、「おう、ここ芝居は珍しいものを出すのう…」と虫干しを兼ねて弾いてくださったことが大きく寄与している。ご一緒に勤めたお蔭で、私は次の世代に伝えることができる。

義太夫節の三味線譜までお書きになった初代塾長は、重松師のイキに振りをきちんと当てるようお子様にも要求なさり厳しかったが、語っていて楽しかった。

さて、これらの演目が、今度はいつご見物の前で上演されるかと思うと…それがさびしい。

伝統を次の世代へ

伝統歌舞伎保存会会員・狂言作者 竹柴 正二

私は大阪松竹の方の薦めで平成2年7月、東京での新橋演舞場公演で松尾塾子供歌舞伎公演に初めて携わりました。

以来、ロサンゼルス公演を始め平成27年の最終公演まで、毎年参加させて頂きました。日本の伝統芸能である歌舞伎に携わる私は、松尾塾子供歌舞伎で小さい頃から日本の伝統芸能を通して、人間として大切な心や一つの目標に向って努力する塾生の姿に感銘を受けました。また、稽古始めの挨拶、終わりの挨拶などの礼儀作法が行き届き、その規律ある環境の中で塾生同士の思いやりの心が育つていてことをひしひしと感じました。

近年、幼い頃から伝統芸能に接する機会が少なく、狂言作者を希望する人も少なくなっています。松尾塾子供歌舞伎では、3、4歳から稽古に通い卒塾まで十数年の間、多くの演目につき身で学びます。そして、歌舞伎を愛し優れた感性や協調性を持つて、歌舞伎の伝承に寄与される卒塾生が生まれました。この様な喜びはございません。

私も永らく松尾塾子供歌舞伎で勉強をさせて頂きました。歌舞伎を糧にこれから的人生を初心にかえつて考えたいと思つております。



松尾塾子供歌舞伎2015
東京公演(国立劇場小劇場)
中央 竹柴正二氏



日常の稽古

日本舞踊・長唄・三味線・上方言語など
一流講師陣による本格指導を受ける中で
子供たちはより高い演技・技術を得る意欲
そして創意工夫する楽しさと自主性を育みます。



下合わせ総稽古



地方^{じかた}と合わせる下合わせ総稽古から舞台稽古へ。公演前日の舞台稽古では、本番に向け衣裳・かつらをつけて立ち位置や舞台の感覚を体で確認して覚えます。

舞台稽古



礼儀作法は挨拶からです。次に無遅刻無欠席、かつ真剣に稽古に励むことです。これが指導者、仲間にに対する礼儀です。真剣に稽古に取り組む先輩の姿勢を見て稽古を重ねるうちに、小さい子にも集中力と忍耐力が備わってきます。大きい子たちは、自分も入塾当初から先輩に面倒を見てもらい成長したので、自然と後輩の世話をするようになり、上下関係を体感して覚えます。



稽古①始めと終わりには座礼をします。
自身②怪験を生かして後輩の面倒をみる先輩塾生。



幕が上がる

大勢の協力で舞台の幕が上がります。
塾生達は自分のお役に責任を持ちながら
互いに支え合います。



小学3年生になると自分で浴衣を着て
帯を締める練習を始めます。
これも先輩熟生に教わります



体調管理も大事な稽古の一つです。少々の風邪では、稽古を休むことはできません。

鶴尾塾子供歌舞伎の塾生と保護者



思春期・反抗期でも親子で理解し合える

公演に向けた演目の稽古は、より高い演技を目指すために各自の創意工夫が必要です。大歌舞伎の舞台を観劇したり、時代背景、自分の役が史実にある時は、その人物のことも勉強するなど自主的に努力をするようになります。また、歌舞伎は出演者が一人でも欠けては幕が上がりません。自己の健康管理はもとより、



塾生たちは互いの役を確認し合い、
自主的に役づくりをするようになります。

松尾塹子供歌舞伎は、塾生である子供だけが学ぶ場ではありません。日々の稽古を親も見学し、公演でもそれぞれが楽屋で役割を果たします。親は子を励まし、子は親を信頼し、一つの目標に向かい乗り越えることで、ともに成長します。

本番舞台裏

大歌舞伎同様の品格ある舞台となるよう

第一線で活躍するスタッフの手によつて

衣裳、かつら、大道具、小道具に至る細部まで

すべての子供一人一人のサイズに合わせて作り上げます。



夢結雁金巣籠松 むすぶゆめこどもはぐくむまつおじゅく

アナウンサー・古典芸能解説者

葛西 聖司

こどものころ憧れたのが「ドリームランド」。

少年時代から大好きだったのが歌舞伎。昔の大阪「新歌舞伎座」で初めて芝居を見た時はドキドキした。そんな夢の空間の創設者が松尾國三翁と知るのはずっとあとのこと。

でも、その後わたしたちをワクワクさせてくれた「松尾塾子供歌舞伎」に出会うのも必然のことだった。こんどは空間ではなく「こども」と「歌舞伎」の力を合体させた成功例を見せてくれた。そんな松尾塾の青少年育成事業は、さまざまな業績を残している。

挨拶する、人間関係の距離を知る、公的なことば使う、見る、聴く、身体をコントロールする、読む、発声する、和服を身にまとつ、歴史を学ぶ、踊る。思いつくままに書いたこと、すべてが網羅されているカリキュラム。それが「歌舞伎を学ぶ」ということだった。

松尾塾が全国のこども歌舞伎チームの先頭を走っていたのは間違いない。東西の国立劇場での発表や一流の講師陣、ほかのどの団体もまねることができない場をなにわの都会つ子たちに提供してくれていた。

ひとりひとりは、やんちゃで、おしゃまで、甘えん坊の、数分もじつとできない児童。それが幅広い年齢層の集団行動のなかで、ライバル心がめばえ個々のめざめが醸成されてゆく。泣いている子や困ったクンに昌出子塾長が聞くひとことは「やめるの？」すると「やめたくない！」それは「お兄ちゃんみたいになりたい」「あの子みたいに踊りたい」舞台という、高いハードルを目指す向上心をキープできる場があつたからだろう。こんな素敵なかん境で切磋琢磨した少年少女たちの多くが社会人になつていて。どんな仕事につこうとも、決してあの拍手は忘れていないだろう。あの涙と、誰も体験できないワクワク感も。

立派な国際人となつた日本のひな鳥たちを育んだ松尾塾の成果は、いま終わるのではなく、これから大きく花開いてゆくのだろう。



本舞台

第一線で活躍する地方の方々に支えられ
幕が上がります。

舞台袖では、片時も目を離さずに見守る
講師と後見の姿があります。

後見は卒塾生が務め、後輩の力となります。



出逢いと学び

卒塾生母 上口 富美

松尾塾は3人の息子と私に沢山のことを教えてくれました。

例えば長男は幼い頃は人前に出ることが大嫌いで、幼稚園の行事前にはいつも尋ねて出していました。ところが入塾してからは仲間と気持ちを一つに取り組むこと、教わったことや更に難しいことに挑戦することそのものを楽しんでいるようでした。今でもまだ時々尋ねて出しますが、嫌とは言いません。挑戦することの楽しさ、大切さを知っているからだと思います。

二男は兄とは正反対で、人前に出ることが大好きで初舞台から大張切りでした。ところが二年目から毎年、楽屋でぐつたりするようになりました。でもよく見てみると、スピーカーから聞こえる舞台の音をじっと聞き、出番が近づくと進んで小道具をもらい舞台へ向かっていました。先生方を始め周りの方々の真剣な姿が、幼いながらに体調を崩すほど、责任感を持ち自立しようとしていたのです。三男はのんびり屋で、家ではよく叱られました。でも松尾塾には台詞を覚えるのが得意な子、音をよく聞ききつかけを掴むのが得意な子など色々な子がいます。スタートはばらばらですが、認め合い励まし合い高め合いながら舞台に向かう稽古場は、三男にとって安心して取り組むことのできる大好きな場所になりました。年齢も性格も違う人達との関わりを、喜び大切にすることができました。

子供だけではありません。母達は子供の身の回りの世話の他に、それぞれに係の仕事があります。各係の仕事はマニュアルには書き表せないことも沢山あり、できないことがあった時には気づいた人がそつと教え手伝えます。そうして子供達を支えながら母達も常に勉強し続けました。卒塾してからもなおです。去年、後見をさせて頂いた息子達に、「気配りするってことが少し分かったみたいね。どこで生活してもどんな仕事をしても、『気配り』が一番大事よ。」と塾長先生は教えてくださいました。今まで教わってきた沢山の、様々な勉強のまとめのように感じました。今ここに書いたことはほんの一部です。松尾塾は歌舞伎を通して「人の心」を教えてくれました。これまでのことをずっと忘れずに、「死ぬまで勉強」していこうと思います。松尾塾で勉強できたことは私達の誇りです。



松尾塾子供歌舞伎 公演外活動



- 1990年 平成2年
1 米国サンゼルス二世ウイーラー
50周年記念行事に参加
松尾塾子供歌舞伎アメリカ公演
日本劇場において
- 1991年 平成3年
2 日中親善・文化交流記者会見
3 紀宮清子内親王殿下ご来場
4 中国少年友好芸術団大阪公演を招請
御堂会館(南御堂)において



- 1993年 平成5年
5 第20回長唄音祐會に参加
6 ジャパンフェスティバル・イン・マレーシアに参加
マレーシア少年少女舞踊団と日本舞踊の合同公演
クアラルンプール市民劇場において
- 1994年 平成6年
7 第14回伝統文化ボーラ特賞を受賞
8 高円宮内閣・承子女王殿下ご来場
- 2002年 平成14年
9 第4回全国子供歌舞伎フェスティバル・イン・小松に参加
小松市公会堂において
- 2004年 平成16年
10 第6回全国子供歌舞伎フェスティバル・イン・小松に参加
石川県こまつ芸術劇場「うらら」において
- 2007年 平成19年
11 第9回全国子供歌舞伎フェスティバル・イン・小松に参加
石川県こまつ芸術劇場「うらら」において
- 2009年 平成21年
12 第11回全国子供歌舞伎フェスティバル・イン・小松に参加
石川県こまつ芸術劇場「うらら」において
- 2015年 平成27年
13 第17回全国子供歌舞伎フェスティバル・イン・小松に参加
石川県こまつ芸術劇場「うらら」において



2

3



京人形





近頃 河原の達引

釣女

長唄未広狩



双蝶々曲輪日記 引窓の場



藤娘

道行初音旅

女夫ばやし

